

令和2年度 高額レセプト上位の概要

健保連では、高額な医療費の発生が個々の健康保険組合財政に及ぼす影響を全組合拠出の財源により緩和するため、健康保険法附則第2条に基づき、『高額医療交付金交付事業』を実施している。

令和2年度（令和2年1月16日から令和3年1月15日）に申請された医療費のうち、1ヵ月の医療費が1,000万円以上の件数は、前年度より514件増加（対前年度比60%増）の1,365件で過去最多となり、過去10年で最高の増加幅であった。

そのうち、2,000万円以上の件数は、対前年度比80件増（96%増）の163件、5,000万円以上の件数は、令和元年度は0件だったのに対し、令和2年度は9件だった。

- 上位100件※を疾患別にみると、循環器系疾患が38件で最多となり、悪性腫瘍24件、血液疾患10件、先天性疾患0件、その他28件だった。
- 上位100件※の疾患別件数を前年度と比較すると、循環器系疾患は6件減（14%減）、悪性腫瘍は24件増（前年度0件）、血液疾患は10件減（50%減）、先天性疾患は増減なし、その他は8件減（22%減）となった。

*平成28年度分から、月額医療費、主傷病名、疾患別の傾向等詳細なとりまとめについては上位100件までとした。

連絡先：健康保険組合連合会
組合サポート部
交付金交付事業グループ
(高額医療担当)
TEL 03-3403-0557

注:主傷病名欄の()は調剤レセプト

図表1 1カ月の医療費が1,000万円以上の高額レセプト上位100位 (令和2年度)

(単位:円)

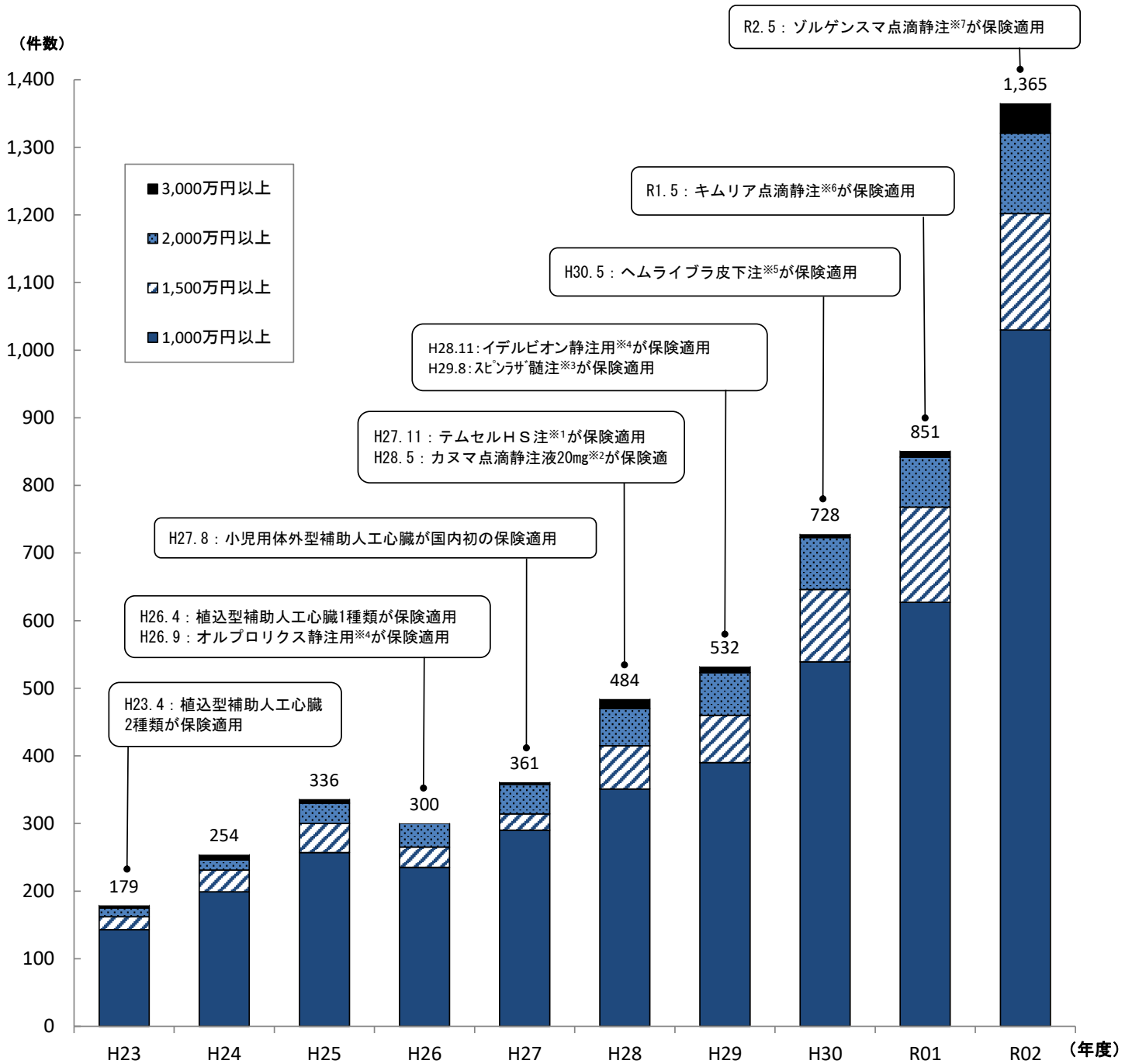
順位	月額医療費	主傷病名	順位	月額医療費	主傷病名	順位	月額医療費	主傷病名	順位	月額医療費	主傷病名
1	171,473,440	脊髄性筋萎縮症	26	36,099,680	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	51	26,901,270	(高フェニルアラニン血症)	76	25,034,490	特発性拡張型心筋症
2	168,293,600	脊髄性筋萎縮症	27	35,867,830	(高フェニルアラニン血症)	52	26,881,800	低ホスファターゼ症	77	25,025,770	血友病B
3	168,109,980	脊髄性筋萎縮症	28	35,867,730	(高フェニルアラニン血症)	53	26,663,290	拡張型相肥大型心筋症	78	24,879,870	ドライブライン感染
4	168,012,230	脊髄性筋萎縮症	29	35,797,360	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	54	26,615,710	アドリアマイシン心筋症	79	24,878,680	特発性拡張型心筋症
5	167,629,410	脊髄性筋萎縮症	30	35,697,500	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	55	26,606,900	特発性拡張型心筋症	80	24,869,770	心サルコイドーシス
6	167,619,660	脊髄性筋萎縮症	31	35,673,800	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	56	26,359,990	特発性拡張型心筋症	81	24,742,940	BH4反応性高フェニルアラニン血症
7	167,330,680	脊髄性筋萎縮症	32	35,598,620	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	57	26,344,220	不整脈原性右室心筋症	81	24,742,940	BH4反応性高フェニルアラニン血症
8	110,162,900	血友病A	33	35,498,070	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	58	26,272,300	特発性拡張型心筋症	81	24,742,940	BH4反応性高フェニルアラニン血症
9	60,569,670	血友病A	34	35,480,970	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	59	26,267,300	特発性拡張型心筋症	84	24,725,120	特発性拡張型心筋症
10	37,728,480	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	35	35,421,320	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	60	26,156,910	慢性心不全	85	24,707,420	BH4反応性高フェニルアラニン血症
11	37,631,600	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	36	33,652,950	BH4反応性高フェニルアラニン血症	61	26,156,130	BH4反応性高フェニルアラニン血症	86	24,678,960	特発性拡張型心筋症
12	37,282,640	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	37	32,827,190	特発性拡張型心筋症	62	25,910,650	(高フェニルアラニン血症)	87	24,660,750	(高フェニルアラニン血症)
13	37,217,000	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	38	32,821,030	(血友病B)	63	25,893,200	特発性拡張型心筋症	88	24,652,560	特発性拡張型心筋症
14	37,142,650	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	39	32,366,620	虚血性心筋症	64	25,745,270	(血友病A)	89	24,647,590	特発性拡張型心筋症
15	37,061,470	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	40	32,278,280	低ホスファターゼ症	65	25,737,900	劇症型心筋炎	90	24,633,520	拡張型相肥大型心筋症
16	36,751,950	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	41	31,384,490	(高フェニルアラニン血症)	66	25,567,190	特発性拡張型心筋症	91	24,630,020	GVHD・同種造血幹細胞移植後
17	36,639,950	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	41	31,384,490	(高フェニルアラニン血症)	67	25,428,720	特発性拡張型心筋症	92	24,616,140	特発性拡張型心筋症
18	36,578,020	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	43	30,317,780	特発性拡張型心筋症	68	25,387,310	特発性拡張型心筋症	93	24,553,420	完全大血管転位症
19	36,570,590	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	44	30,288,240	(血友病A)	69	25,365,560	虚血性心筋症	94	24,522,730	拡張型相肥大型心筋症
20	36,497,180	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	45	29,591,350	(高フェニルアラニン血症)	70	25,355,280	特発性拡張型心筋症	95	24,510,280	劇症型心筋炎
21	36,455,130	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	46	29,142,890	(高フェニルアラニン血症)	71	25,203,860	特発性拡張型心筋症	96	23,931,150	(高フェニルアラニン血症)
22	36,454,140	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	47	28,361,820	特発性拡張型心筋症	72	25,066,410	うっ血性心不全	97	23,805,230	特発性拡張型心筋症
23	36,240,390	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	48	27,910,820	特発性拡張型心筋症	73	25,065,480	(血友病B)	98	23,802,940	(血友病B)
24	36,160,370	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	49	27,026,700	特発性拡張型心筋症	74	25,059,510	(血友病B)	98	23,802,940	(血友病B)
25	36,101,120	B細胞性急性リンパ芽球性白血病	50	26,928,480	BH4反応性高フェニルアラニン血症	75	25,038,060	特発性拡張型心筋症	100	23,778,810	特発性拡張型心筋症

図表2 1,000万円以上高額レセプトの件数と最高金額等

年度	件数	最高金額	主傷病名
平成 13 年	106 件	22,561,810 円	急性膵壊死
〃 14 年	81 件	40,073,310 円	血友病A
〃 15 年	101 件	29,859,940 円	大動脈解離
〃 16 年	89 件	23,893,270 円	血友病A
〃 17 年	115 件	34,953,330 円	血友病A
〃 18 年	116 件	23,567,750 円	骨肉腫
〃 19 年	140 件	37,629,030 円	血友病
〃 20 年	134 件	28,416,300 円	血友病B
〃 21 年	155 件	38,280,620 円	血友病B
〃 22 年	174 件	46,392,680 円	血友病B

年度	件数	最高金額	主傷病名
平成 23 年	179 件	115,504,940 円	血友病A
〃 24 年	254 件	84,811,650 円	血友病A
〃 25 年	336 件	62,212,360 円	血友病A
〃 26 年	300 件	29,917,200 円	肥大型心筋症
〃 27 年	361 件	42,530,080 円	血友病A
〃 28 年	484 件	106,941,690 円	フォンウィルブランド病
〃 29 年	532 件	79,157,950 円	血友病A
〃 30 年	728 件	90,581,510 円	血友病A
令和 元年	851 件	40,377,520 円	血友病A
〃 2 年	1,365 件	171,473,440 円	脊髄性筋萎縮症

図表3 過去10年の1,000万円以上高額レセプトの件数の年次推移



※1: 造血幹細胞移植後の急性GVHD(移植片対宿主病)に対する治療薬

※2: ライソゾーム酸性リパーゼ欠損症(コレステロールエステル蓄積症、ウォルマン病)に対する治療薬

※3: 脊髄性筋萎縮症に対する治療薬

※4: 血友病Bの血液凝固注射剤

※5: 血友病Aの血液凝固注射剤

※6: 白血病などのがん治療薬

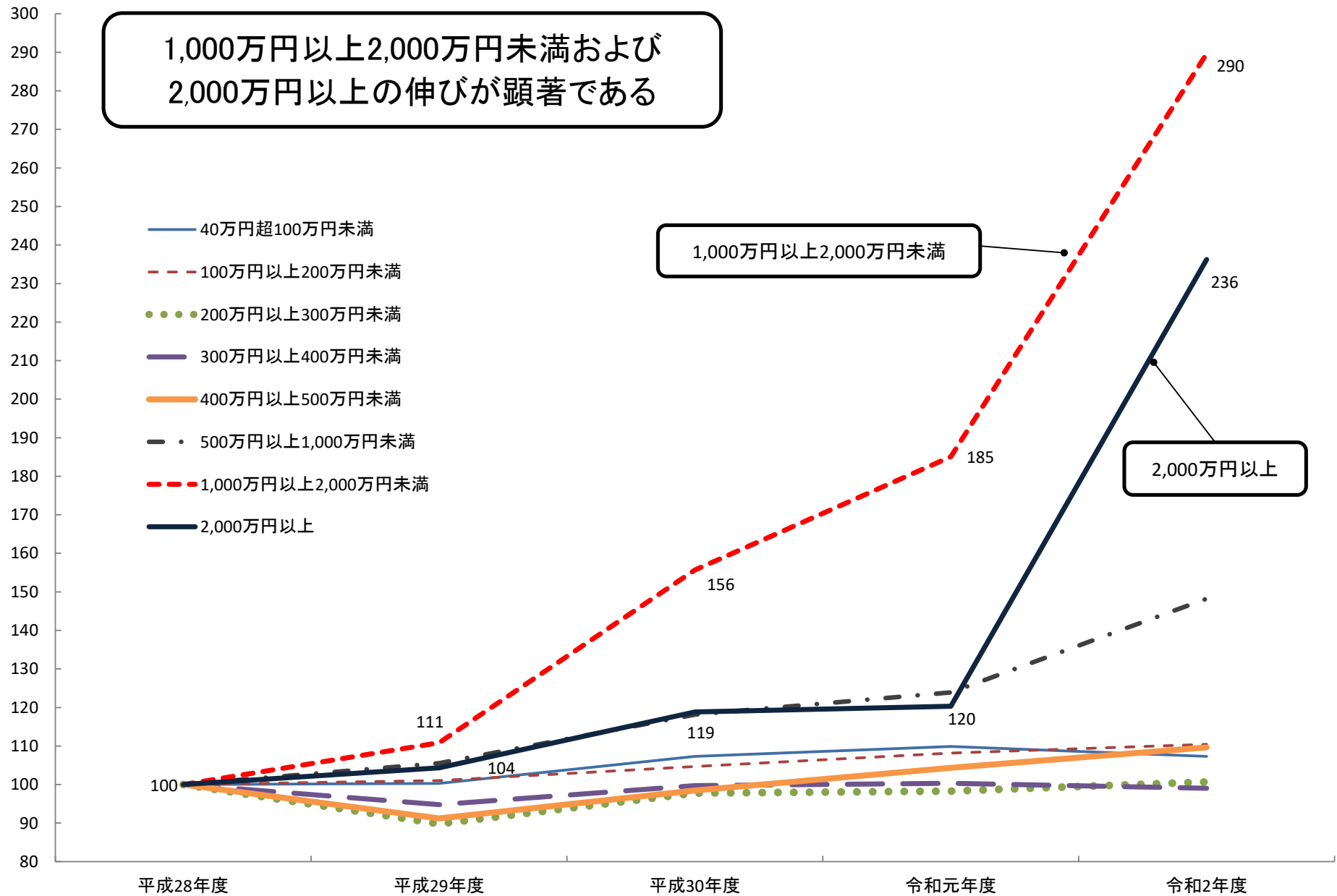
※7: 脊髄性筋萎縮症に対する治療薬(2歳未満が対象)

図表4 高額医療交付金交付事業における金額階級別交付件数の推移

金額階級		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
40万円超 100万円未満	件数	90,081	90,325	96,636	98,978	96,648
	指数	100	100	107	110	107
	対前年度比		0.27%	6.99%	2.42%	-2.35%
	構成割合	28.6%	29.1%	29.4%	29.4%	28.3%
100万円以上 200万円未満	件数	145,614	147,152	152,438	157,481	160,809
	指数	100	101	105	108	110
	対前年度比		1.06%	3.59%	3.31%	2.11%
	構成割合	46.2%	47.4%	46.4%	46.7%	47.1%
200万円以上 300万円未満	件数	50,381	45,238	49,271	49,522	50,721
	指数	100	90	98	98	101
	対前年度比		-10.21%	8.92%	0.51%	2.42%
	構成割合	16.0%	14.6%	15.0%	14.7%	14.9%
300万円以上 400万円未満	件数	15,705	14,886	15,665	15,756	15,550
	指数	100	95	100	100	99
	対前年度比		-5.21%	5.23%	0.58%	-1.31%
	構成割合	5.0%	4.8%	4.8%	4.7%	4.6%
400万円以上 500万円未満	件数	7,087	6,464	6,979	7,396	7,770
	指数	100	91	98	104	110
	対前年度比		-8.79%	7.97%	5.98%	5.06%
	構成割合	2.2%	2.1%	2.1%	2.2%	2.3%
500万円以上 1,000万円未満	件数	5,784	6,104	6,832	7,168	8,573
	指数	100	106	118	124	148
	対前年度比		5.53%	11.93%	4.92%	19.60%
	構成割合	1.8%	2.0%	2.1%	2.1%	2.5%
1,000万円以上 2,000万円未満	件数	415	460	646	768	1,202
	指数	100	111	156	185	290
	対前年度比		10.84%	40.43%	18.89%	56.51%
	構成割合	0.13%	0.15%	0.20%	0.23%	0.35%
2,000万円以上	件数	69	72	82	83	163
	指数	100	104	119	120	236
	対前年度比		4.35%	13.89%	1.22%	96.39%
	構成割合	0.022%	0.023%	0.025%	0.025%	0.048%
合計	件数	315,136	310,701	328,549	337,152	341,436
	指数	100	99	104	107	108
	対前年度比		-1.41%	5.74%	2.62%	1.27%

(注) 指数は、平成28年度を100とした伸び率である。

図表5 金額階級別交付件数の推移



(注)平成28年度を「100」とした伸び率の推移である。

高額医療交付金の交付の仕組み

1. 高額医療交付金の交付基準

- レセプト1件あたりの決定金額が下記の交付基準額を超える場合に交付対象とし、財源との見合いにより、①+②となる交付対象額に、交付率を乗じて交付決定額とする。
- ただし、400万円超部分には交付率を乗じず、100%交付とする。

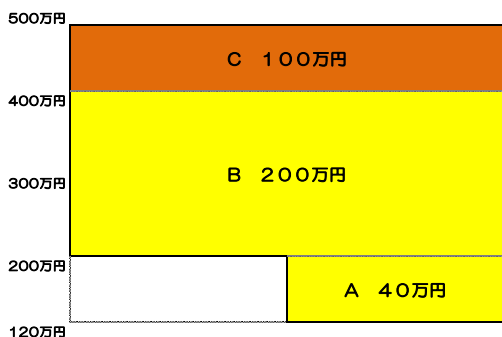
対象額 ①+② $\left\{ \begin{array}{l} \text{①} = \text{交付基準額を超えて200万円以下の部分は2分の1 (図A部分)} \\ \text{②} = \text{200万円超の部分は1分の1 (図B・C部分)} \end{array} \right.$

1) 一般疾病の場合 (交付基準額120万円超)

- ① 120万円超200万円以下の部分 (A) = 2分の1
- ② 200万円超の部分 (B+C) = 1分の1

例) 500万円のレセプトの場合

交付対象額 (①+②) = 40万円 + 300万円 = 340万円



400万円以下部分 (A+B) = 240万円 ← 交付率乗じる
400万円超部分 (C) = 100万円 ← 交付率を乗じない

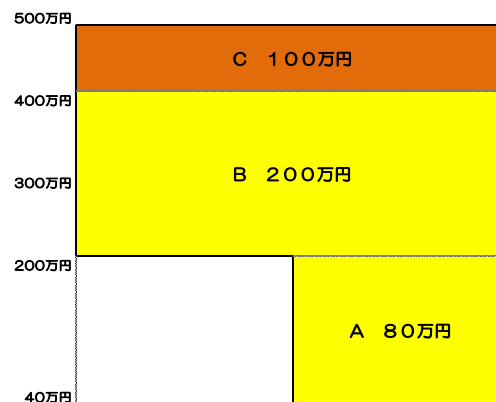
交付決定額 = 240万円 × 交付率 + 100万円

2) 特定疾病の場合 (交付基準額40万円超)

- ① 40万円超200万円以下の部分 (A) = 2分の1
- ② 200万円超の部分 (B+C) = 1分の1

例) 500万円のレセプトの場合

交付対象額 (①+②) = 80万円 + 300万円 = 380万円



400万円以下部分 (A+B) = 280万円 ← 交付率乗じる
400万円超部分 (C) = 100万円 ← 交付率を乗じない

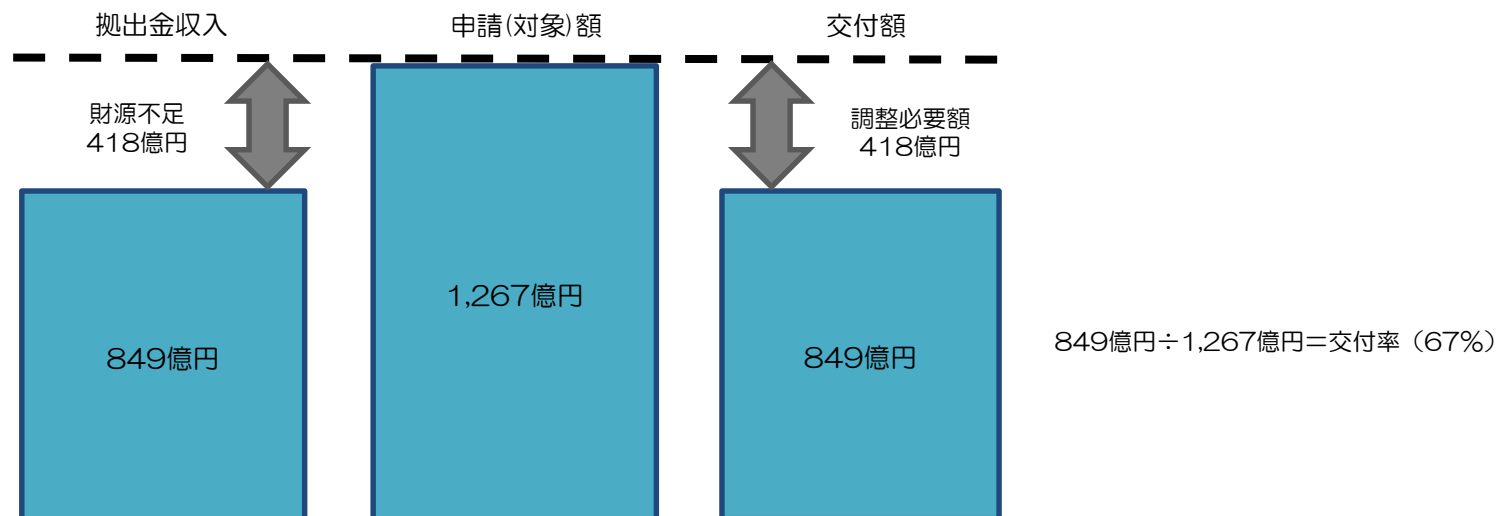
交付決定額 = 280万円 × 交付率 + 100万円

※特定疾病：人工腎臓実施慢性腎不全、血漿分画製剤投与の先天性血液凝固第Ⅷ因子障害又は先天性血液凝固第Ⅸ因子障害、抗ウイルス剤投与の後天性免疫不全症候群（HIV感染を含み厚生労働大臣の定める者）

2. 高額医療交付金の交付率

- 高額医療交付金は、財源である財政調整事業拠出金収入の範囲内で交付決定を行う。
- 下記イメージのように、財源を超える申請があった場合、財源不足分を調整するための交付率を算出する。
- なお、400万円超部分の交付率は、100%としている。

【図】 高額医療交付金の交付率の考え方（イメージ）



『高額医療交付金交付事業』の概要

1. 事業の目的

『高額医療交付金交付事業』は健康保険法附則第2条に規定する法定事業（交付金交付事業）で、高額な医療費が発生した健康保険組合への財政的な影響を緩和するために行っている。

2. 財源

各健康保険組合が被保険者から徴収した調整保険料は健保連へ拋出され、交付金交付事業（『高額医療交付金交付事業』、及び『組合財政支援交付金交付事業』）の財源となる。交付金交付事業の事業規模は千分の1.3と定められ（厚生労働大臣告示）、このうち千分の1.0相当額を『高額医療交付金交付事業』の財源として、残りの千分の0.3相当額を『組合財政支援交付金交付事業』の財源に充てている。ただし、28年度から、千分の1.1相当額を『高額医療交付金交付事業』の財源として、残りの千分の0.2相当額を『組合財政支援交付金交付事業』の財源とした。なお、令和2年度の『高額医療交付金交付事業』の財源は約1,008億円（単年度収入）である。

3. 令和2年度の交付対象

令和2年1月16日から令和3年1月15日までの間に申請されたレセプト1件の月額医療費のうち、交付基準額（一般疾病は120万円、特定疾病（※）は40万円）を超えた部分を交付対象とする（そのうち令和2年度事業分は令和元年11月から令和2年10月診療分のレセプト）。

なお、令和2年度の交付申請組合数は1,370組合、交付対象件数は341,436件、交付対象総額は約1,833億円（令和2年度の交付率は60%、交付額は約1,266億円）。

※ 特定疾病とは、長期にわたって高額な医療費を要するとして厚生労働大臣が指定した次の疾病である。

- 1.人工腎臓を実施している慢性腎不全
- 2.血友病（血漿分画製剤を投与している先天性血液凝固第Ⅷ因子障害または先天性血液凝固第Ⅸ因子障害）
- 3.抗ウイルス剤を投与している後天性免疫不全症候群（HIV感染を含み、厚生労働大臣の定める者に係るものに限る）